

2019年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

ユニバーサルデザインを取り入れた「わかる授業」や「自己肯定感」を育むキャリア教育、特別活動の充実は、本校の学校計画の根幹である。それを踏まえて、教務部、福祉教養科による学習活動、進路指導部による進路支援、特活部による学校行事の充実、総務部によるPTAとの連携の5点を重点課題に絞り、評価を受けた。

重点課題①：生徒の実態把握による適切な受講登録とわかる授業の確立

重点課題②：社会福祉に対する興味・関心の向上と基本的知識・技能の習得、及び思いやりの心の育成

重点課題③：生徒の実態や目標に即した進路指導

重点課題④：全校生徒が目標を意識しながら主体的に取り組む学校行事

重点課題⑤：本校教育活動とPTA活動の連携

重点課題の評価は、②の「里孫活動」の項目、③、④、⑤がA（達成）、①、②の「自己評価表」の項目がC（現状維持）であった。評価に差があったが、前年度よりも高い目標を設定し、取り組んだことに対して、評価していただくとともに、いくつかの課題も指摘され指導・助言をいただいた。

- ①ICTの活用を進めて、わかる授業を実践してほしい。それが、出席率の向上にもつながると思う。
- ②最近2年、福祉教養科の生徒が増加傾向にある。福祉に興味・関心をもった生徒が受検してくれるよう、今後も折に触れ、中学校にPRをしてほしい。
- ③アンケート結果の分析（理由や要望の把握等）をさらに進めてほしい。また、就職者の定着率など、卒業生の状況の把握を続けてほしい。
- ④学校行事ではPTAとの連携が大切である。
- ⑤今後もPTA活動への参加者が増える工夫をしてほしい。

7 次年度へ向けての課題と方策

学校評議員からは、学校の取組について概ね良い評価を受けた。また、今後の取組についても、授業でのICTの活用、福祉教養科の新しいPR用の動画の作成など、具体的な方策が提示された。

8 学校アクションプラン

2019年度 新川みどり野高等学校アクションプラン		－ 1 －
重点項目	学習活動（学習指導）	
重点課題	生徒の実態把握による適切な受講登録とわかる授業の確立	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・本校には不登校経験者が多く、基礎学力が定着していない生徒がいる。 ・様々な理由から、転入学生や編入学生が多くいる。 ・進路希望は就職希望から四年制大学への進学まで多岐にわたる。 ・学習への目的意識に乏しく、安易な欠席や遅刻が見受けられる。 ・互見授業を実施しているが、生徒へのフィードバックに課題が残る。 	
達成目標	講座出席率と単位修得率	
	80%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒や学習習慣が身に付いていない生徒が授業に参加できるように、学校全体で学習の支援にあたる。 ・HRや面談を通じ、一人一人の目的に沿った無理のない受講登録を勧める。 ・生徒、教員（担任・授業担当者）、保護者との連携をとっていく。 ・授業内容の見える化やICTの活用を通して、生徒の学習意欲の向上に努める。 ・教科内や教科を横断して学習活動や指導方法の工夫を図り、生徒が主体的に参加できるように、わかる授業の実践に努める。 	
達成度	講座出席率 78.4% 単位修得率 81.2%（前期）	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業や習熟度別授業の中に、中学校の振り返りや進路に応じた講座を準備し、学校全体で生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導を行った。 ・新しい講座の開設があり、これまで以上に教科担当者と連絡を密に取り、ガイダンスや面談を通じて生徒の実情に応じた受講登録を行った。 ・生徒の学習状況を年次や教科で共有し、声かけや面談の支援をした。状況によっては保護者へ連絡し、学校生活の改善に向けて協力を仰いだ。 ・ICTを活用した授業を実践している講座を紹介して、わかる授業の推進に努めた。 ・各学期に互見授業を行い授業改善に努めた。後期には教科担当者全員が参観できるように工夫し、PDCAサイクルによる振り返りを行った。 ・若手教員のための研修会を開催し、クラス運営や授業方法について意見を交換しながら指導力の向上に努めた。 	
評 価	C	
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に登校することに困難を覚えている生徒が多く在籍している中で、講座出席率や単位修得率が80%前後であることを考えると、学校側の取り組みには一定の評価をしたい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各年次や教科と連絡を密にして初期指導を充実させ、学校生活に目標を持てるように支援する。特別な支援が必要な生徒には、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの協力を得ながら、担任や教科担当と連携して個別の学習支援計画を作成する。 ・アクティブラーニング型授業やICTの活用などの校内研修を充実させ、わかる授業の実践を推し進める。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。）

重点項目	学習活動（福祉教養科）	
重点課題	社会福祉に対する興味・関心の向上と基本的知識・技能の習得、及び思いやりの心の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次生から実習・体験、専門家による講義等を計画的に取り入れ、福祉に対する興味・関心を高めながら、思いやりの心を育成していく必要がある。 ・介護職員初任者研修の受講生は0名(対象生徒3名中)である。 ・福祉系職種に求められる資質と介護技術の基礎・基本を身に付ける指導をし、昨年度の医療・福祉系の進路は2名(3名中)であった。 ・昨年度の「生活態度・福祉についての自己評価表」による“福祉”の達成度は85.7%であった。 	
達成目標	①「生活態度・福祉についての自己評価表」における“福祉”と“学校生活”項目が向上した生徒の割合（現状維持を含める） ②里孫活動への加入と参加の割合 ①80%以上 ②全員加入と参加率60%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生活態度・福祉についての自己評価を年2回実施する。各自の自己目標を意識させ行動を促し、今年度の目標に到達できるよう働きかける（自己評価表の評価表記の検討、福祉・学校生活項目の意識付け）。 ・個々の福祉マインドの育成を図るために、担任・教科間での情報交換を密に行う。また生徒の学習や活動状況の把握と面接等を適宜実施する。 ・様々な体験や福祉体験学習等を通して、思いやりの心や自主性・協調性を学ばせるとともに、ボランティア活動（里孫活動は卒業年次までの継続）を特活部と連携を取りながら推進する。 ・個別および年次生の学習補充の他、生活や進路指導、福祉教養科の活動や生徒の交流を積極的に図る。 ・1年次から面談や保護者会を通じて、介護職員初任者研修受講を働きかける。 ・福祉教養科、介護職員初任者研修について、中学校や外部に対するPRを行う（オープンハイスクール・学校見学会での福祉教養科の紹介、授業参観、ホームページ、資料 他）。 	
達成度	①「学校生活」77.8% 「福祉」88.9% ②全員加入・参加率83.3%（校内活動を除く場合77.8%）	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生活態度・福祉についての自己評価を9月と12月に実施した。自己評価は、生徒と担任が面談をして個別評価（数値化）を行うが、生徒数が少ないため個々の変化を重視し、全体（クラス、科）の数値は傾向として捉えた。「福祉」項目は昨年度（85.7%）より微増した。専門科目や行事で、生徒が多く役割や活動を担い体験した。活動の事後アンケートでは生徒の前向きな感想や意見が多かった。 ・ボランティア活動である「里孫」の参加状況は、校内外の活動の6回中6回、5回、4回が各3名であった。 ・今年度は新たに「地域施設交流会」、新川キャンパスフェスティバルで「被災地への募金活動」を試みた。 	
評 価	① B：ほぼ達成した	② A：達成した
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉教養科のPR動画、パンフレットは更新・活用することで科を志望する中学生の増加につながり、有効な手立てとなっているのではないか。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度、「里孫活動」が特活部から福祉教養科へ移管するため、科の活動として位置づけ、さらに充実するよう施設と十分に協議を行う。 ・生徒に主体性をもたせるため、身近な地域を中心とした体験やボランティア活動を模索し、科の行事や活動と並行して取り組んでいくことが必要である。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。)

2019年度 新川みどり野高等学校アクションプラン -3-

重点項目	進路支援（進路指導）
重点課題	生徒の実態や目標に即した進路指導
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年、就職希望者より進学希望者が若干多い。進学は推薦入試によるものがほとんどで、進路先は四年制大学から専門学校まで、県内にこだわらず多岐にわたっている。一方、就職は地元の企業・事業所がほとんどである。 ・ここ数年、卒業生の進路先への満足度は90%を超え、おおむね満足しているものの、学校評議員から進路指導全般（全校生徒）における満足度はどうかと助言を賜り、今年度も重点課題として位置付けている。
達成目標	① 卒業予定生の進路指導（事前指導～進路決定～事後指導）への満足度 ② 卒業予定生以外の生徒の進路指導（1年間を振り返って）への満足度 ③ 1、2年次の生徒の進路指導（1年間を振り返って）への満足度 ① 90%以上 ② 80%以上 ③ 80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・『進路のてびき』を効果的に活用する。 ・「キャリア支援講座」、「キャリア教室」、「卒業生等招聘事業」を通し、進路実現に向けた意識・意欲を高める。 ・「学びの森」を通し、基礎学力の向上を図り、定着度を把握する。 ・「模擬試験」、「学習支援」、「休業中における課題」等を通し、自己の学力を把握させ、学力の定着、伸長を図る。 ・「就業体験学習」（インターンシップも含む）や「応募前職場見学」などに積極的に取り組ませ、職業意識を高める。 ・「進路指導部との面談」を年2回実施し、生徒の思い、不安等を確認し、情報等の提供を充実させる。 ・アンケート調査を実施し、生徒の満足度を調査する。
達 成 度	① 卒業予定生94%（29人/31人） ② 3、4年全生徒82%（40人/49人） ③ 1年次生96%（25人/26人）2年次生89%（25人/28人）
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・『進路のてびき』を全員に配布し、各講座、HR等の活動ごとに記録する「ポートフォリオ」を作成させ、進路に対する意識を高めることができた。 ・「キャリア支援講座」を年2回実施し、年次ごとに趣向を凝らした取組みを行い、進路実現に向け系統的に実施することができた。 ・進路実現に向けた、「休業中における課題」、「学習支援」、「個別面接指導」、「学びの森」等、各年次の状況に応じて実施できた。 ・「オープンキャンパス」、「応募前職場見学」や「就業体験（インターンシップ）」に積極的に参加させ、学校や職場の状況等を理解することができた。 ・進路指導部が主催し、卒業予定生には5月、2年生には11月に進路に関する全員面接を実施し、状況を把握することができた。
評 価	A 達成した。（①、②、③ともに目標値に達した）
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査で「満足」以外（「どちらかといえば満足」～「不満」）を選んだ生徒の気持ちや要望の把握が大切である。 ・今後も離職者に関する情報の収集に努めてほしい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・『進路のてびき』の内容を精選する。（特に入学後の取組みを中心に） ・進路に対する意識付けや現状を確認する意味でも、「職業適性検査」、「自尊感情測定尺度分析（自己肯定感）」等を効果的に実施する。 ・進路への意識を高めるため、各講座後に生徒が書いた記録・振り返り等を他の生徒（年次を越えて）が閲覧できるようにする。 ・「社会人に向けての心構え」として、外部講師、卒業生に加え、PTA、地域、県民カレッジ受講者等にも働きかけ、話を聞く機会を設ける。 ・今後もハローワーク、キャリアアドバイザー、障害者コーディネーター等と連絡を密にして就職支援を行う。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	特別活動（学校行事）	
重点課題	全校生徒が行事の目標を意識しながら主体的に取り組む学校行事	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事には参加するが、その行事の目標を理解しないまま参加している生徒が多い。 ・これまで行事ごとに設定していた目標は、項目が多すぎたため、生徒への周知徹底が困難だった。 ・これまでスポーツフェスティバル（体育大会）、新川キャンパスフェスティバル（文化祭）等のスローガンを設定した行事では、スローガンの内容が行事内容に反映されていなかった。 ・各行事において、行事全体または生徒全体の目標が分かりにくかったため、統一したテーマや一体感が感じられない。 	
達成目標	各行事において、目標とスローガンを統一し、全校生徒がその目標を意識して取り組むことができる。	
	70%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・行事ごとに、特に重点的に取り組む目標を、スローガン程度の文字数で設定する。 ・目標に沿った行事の工夫をする。 ・行事前に全校生徒が目標を周知できるよう工夫する。 ・行事後にアンケートを実施して達成度を計るとともに、次の行事では更に目標を意識できるようにする。 	
達成度	79%（体育大会80%、文化祭79%、球技大会78%）	
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツフェスティバル（体育大会）、新川キャンパスフェスティバル（文化祭）では、スローガンを周知するとともに、授業（書道、美術、英語など）でもスローガンを使い作品を作り、生徒の意識を高めた。 ・委員会や生徒会活動を通して、生徒間、生徒と担当教員間の話し合いを大切にした。 ・事後アンケートを実施し、今後につながる意見を吸い上げた。 ・週に一度の特活部会を定例化し、情報の共有と審議を行った。 	
評 価	A	
学校関係 者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・さらにボランティアの参加をお願いします。体育大会には、またぜひ保護者参加の競技を作り、親子の思い出作りに協力してほしい。 	
次年度へ 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な問題を抱える生徒が学校行事に主体的に取り組めるように更に工夫する。 ・今年度初めて、体育大会の競技に保護者の方々に参加していただいたり、文化祭では、日頃ボランティア活動でお世話になっている黒部市ふれあい交流館等の地域の施設に出展していただいたりするなど、生徒たちにとって良い体験となった。生徒たちに今後、自分たちが地域社会の一員であることを更に自覚して活動してほしい。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	P T A活動	
重点課題	本校教育活動とP T A活動の連携	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A総会をはじめ、保護者の来校が少なく、加えて参加者が固定化している。 ・ 役員会においては、比較的参加率も高く、盛況である。 ・ 学校からの配布物が保護者のもとに渡っていなかったり、保護者の出欠の返事が生徒から戻らなかったりすることが多い。 ・ 入学式直後の保護者懇談会で、3年間で一度は役員に就くという方針を説明し、3年間分の役員を決めるやり方が定着している。 ・ P T Aのホームページ（HP）が従来に比べかなり充実している。 	
達成目標	P T A活動・学校行事等への参加人数	
	のべ180人以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日頃から、P T A行事の案内や活動の様子についてHP・学校教育安全メール等を通じ、こまめに知らせる。 ・ P T A・振興会総会を保護者が出席しやすい土曜日に設定する。 ・ 保護者が来校される機会を増設する。 ・ 年次や他の分掌と連携し、保護者にも行事や講座・講演等への参加を呼びかける。 	
達成度	269人（2月10日現在）	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A行事の案内や活動の様子をHP・学校教育安全メールで連絡した。 ・ 今年度、P T A・振興会総会を土曜日開催にしたことで、昨年度より参加人数が倍増した。 ・ 1年次の保護者会（5月）および卒業予定者の保護者会（7月）の期間に、学校開放WEEKを2回実施した。生徒の授業の見学や施設見学を促すように、曜日ごとの時間割を作成し、受付で配布した。 ・ 年次や進路指導部、保健厚生部等と連携し、保護者にも行事や講演会等の参加を促した。 	
評 価	A	
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の来校が増えていることはとてもすばらしい。 ・ スポーツフェスティバルの保護者の参加は、次年度も継続していただきたい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A・振興会総会の当日の日程を工夫し、保護者が参加しやすいようなスケジュールを立てる。 ・ 既に実施されている行事の参加者を増やす。 ・ HPをさらに充実させ、昨年度の分も閲覧できるようにP T Aの活動状況を外部に発信する。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。）